



ふるさとの恵みをふるさとでいただく キーワードは「地産地消！」

市政 ピックアップ

市では、「定住促進」や「交流人口拡大」などで市がさらに元気になるさまざまな取り組みを行っています。このコーナーでは、市が計画または実施しているその取り組みの中からピックアップして紹介します。

取り上げた事業の中で不明な点や、取り上げてほしい事業などがありましたら総務課秘書広報係が担当課までお尋ねください。



今回紹介する取り組み

最近の食を取り巻く環境は、生産者と消費者の距離が物理的にも心理的にも遠くなり、相互の関係が希薄になってきています。

また、食品の産地偽装やBSE、鳥インフルエンザ問題などを契機として、食品の安全・安心や地域農林水産業の後継者不足や耕作放棄地の問題など、第一次産業に対する市民の意識が高まっています。

このような中、食と農林水産業が抱えるさまざまな問題を解決する一つの方法として、「地産地消」がクローズアップされています。そこで今月号では、本市で進めている地産地消の取り組みについてお知らせします。

地産地消とは？

地産地消とは、文字どおり地域生産、地域消費の略語です。

消費者からいえば近くで作られているものを消費する（食べる）、生産者からいえば消費する人の近くで作る、という意味の言葉です。

現在は流通が発達し、いわば「遠産遠消」になり、地元が無いもの、定期的に地元では手に入らないものでも遠くから運ばれ、いつでも欲しいものが手に入るようになり、消費者にとって

は大変便利な時代になっています。

しかし、地域の農林水産物はその地域の環境によって育てられたものであり、健全な農林水産物は健康な環境を守る役割があります。このことは、地域の環境や生活の質の向上を目指すことで地域の自立性を高め、地域で生活する消費者にとっても大きな意味を持つこととなります。

地産地消の役割と効果

地産地消の取り組みには、以下に掲げるような役割と効果があります。

- 【安全・安心な農水産物の消費者への提供】
- 【顔が見え、話ができる】信頼関係の構築】
- 【農水産業者の所得の多様化】
- 【経済循環による地域活性化】
- 【流通コストの低減】
- 【食育活動の推進】
- 【地域の伝統的食文化の継承】
- 【過疎化の抑制・耕作放棄地の解消】



地域の青年農業者による食育活動の様子

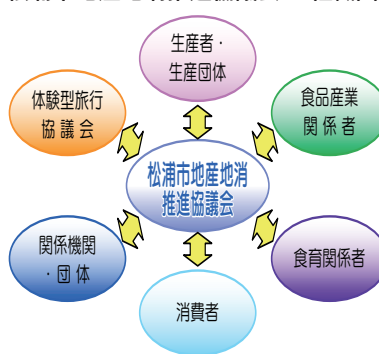
本市の取り組み

平成20年11月に平成20年度から24年度までの5年間の計画として策定した「松浦市地産地消推進計画」では、次の7つを重点として地産地消を進めることとしています。

- ① 新たな生産・物流システムの構築
- ② 販売ルートの拡大
- ③ 食育の推進と新たな食文化の創造
- ④ 地産地消に関する情報の発信
- ⑤ 農林水産物のブランド化
- ⑥ 消費者・生産者の交流促進
- ⑦ 観光関連組織及び体験型旅行協議会との協働

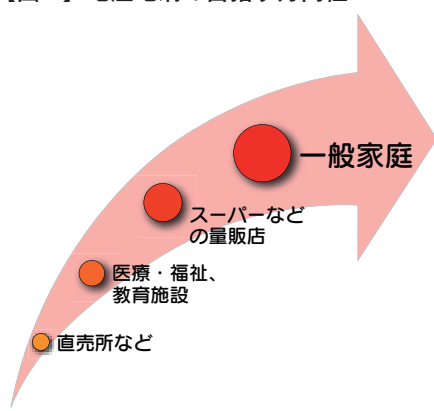
この中の最初の取り組みとして、「松浦市地産地消推進協議会」を3月に設置しました。この協議会は、【図1】に示すとおり、農林水産業団体、生産者、流通・加工業者、販売者、消費者の連携によって、具体的な地産地消の推進策を協議しており、現在までに4回の協議を行いました。

【図1】松浦市地産地消推進協議会の組織図



また、地産地消の目指す方向性として、現在、直売所を中心として市内各地で行われている地産地消の取り組みをネットワーク化し、市内全域を網羅するとともに、【図2】「地産地消の目指す方向性」に示すように、「医療・福祉、教育施設」そして「スーパーなどの量販店」へ、最終的には「一般家庭」まで地産地消が浸透していくことを目標としています。

【図2】地産地消の目指す方向性



現在までの取り組み

地産地消の推進のためにはさまざまな取り組みが必要となりますが、その中から特に重点として取り組み内容を整理するため、この協議会に生産部会と消費部会の2つの部会を設けています。

それぞれの部会と全体会という形で「地産地消の推進のために何が課題となっているか」を協議した結果、生産部会からは「地産地消マー

ケットに出荷するためには、大量出荷である市場出荷と異なった、少量出荷に対応した新たな流通システムが必要」との課題が出されました。また、消費部会からは、「生産物を一定量確保するために、地域生産物を把握し、取りまとめなどを行う組織が必要」との課題が出されています。



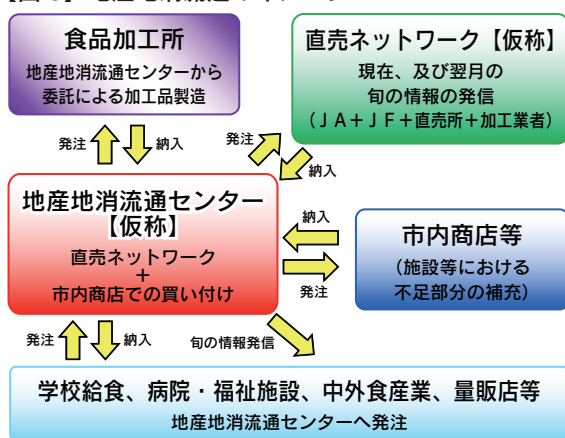
第1回松浦市地産地消推進協議会の様子

今後の取り組み

協議会での協議の結果、当面の方針として、必ず一定量の消費が見込まれる「学校給食の地産地消のさらなる推進」の取り組みを行うこととなりました。

本市の学校給食の現状は、米飯給食のお米は100パーセント松浦産の米が使われており、野菜でも30パーセント以上が市内産、また魚介類の加工品の一部も市内産が使われています。全

【図3】地産地消流通のイメージ



国と比べても地産地消率が高い地域と なっていますが、さらに地産地消を推し進めます。

具体的には【図3】「地産地消流通のイメージ」にあるように、生産の拠点として、「直売ネットワーク（仮称）」を作り、計画的な生産を行うとともに、消費の拠点として「地産地消流通センター（仮称）」を設置し、旬の食材の情報を生かした地元食材の提供を行う予定です。

また、将来的には、この「直売ネットワーク（仮称）」と「地産地消流通センター（仮称）」を活用することで、医療や福祉分野への地域生産物の提供や、中外食産業、量販店などへの出荷を目指して地産地消を推進していきたいと考えています。

【問合せ先】 農林課